

## 手形の連結上の処理



▶ 連結会社間で手形取引を行い、連結決算期末に未決済の場合、それを示す受取手形と支払手形を相殺消去します。

ただし、手形は裏書や割引を行う可能性があるため、その場合の連結修正仕訳には注意が必要です。

### 1 内部取引の消去

▶ 連結会社間で手形の授受が行われた場合、連結ベースでは企業グループ内部の取引にすぎないため、個別会計上の仕訳を消去します。

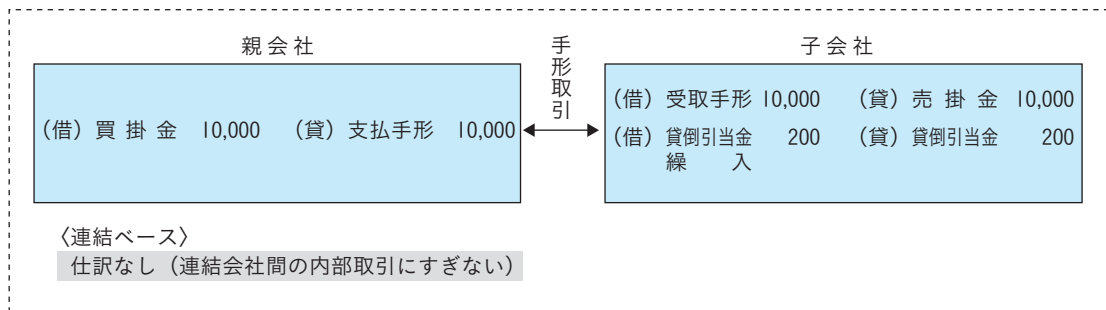
#### Q 1 - 1 | 手形取引 |

P社(親会社)はS社(100%子会社)に買掛金の支払のために手形 10,000円を振り出した。S社はこの手形を期末現在保有している。このときの連結修正仕訳を示しなさい。なお、S社は売上債権残高に対して2%の貸倒引当金を設定している。

#### A 1 - 1 | 解答・解説 |



(借) 支払手形	10,000	(貸) 受取手形	10,000
(借) 貸倒引当金	200	(貸) 貸倒引当金繰入	200



S社は100%子会社なので、非支配株主持分の修正は必要ありません。

### 2 他勘定への振替え

▶ 親会社が振り出した手形を子会社が受け取り、さらに企業グループ外に割引・裏書した場合には他勘定へ振り替えます<sup>01)</sup>。

01) 子会社が振り出した手形を親会社が割引・裏書した場合も同じです。

## (I) 割引手形

▶ 企業グループ内で発行した手形を企業グループ外(銀行など)で割り引いた場合は、手形による資金の借入れと考え、短期借入金勘定に振り替えます<sup>02)</sup>。

さらに、手形の割引料は、手形借入にともなう「利息の前払い」と考えられますので、個別会計上計上されている手形売却損勘定を支払利息勘定に振り替えます。

また、振り替えた支払利息のうち次期に係る部分を前払利息勘定に振り替えます。

02) 手形の振出しによる借入金で1年を超えるものは通常ありませんので、短期借入金として表示します。

### Q 1 - 2 | 割引手形 |

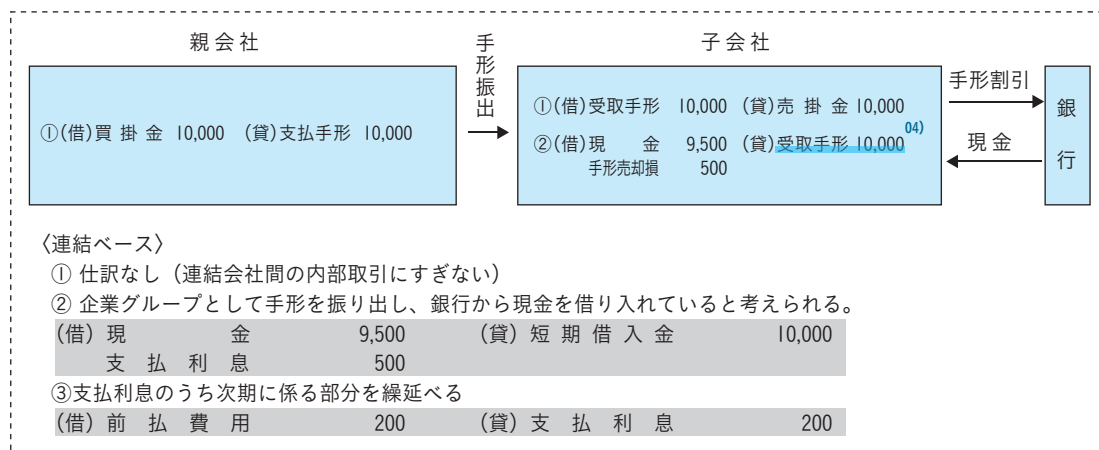
P社(親会社)はS社(子会社)に買掛金の支払のため手形 10,000円を振り出した。S社はこの手形を銀行で割り引き、割引料 500円(次期に係る部分: 200円)を差し引かれた。このときの連結修正仕訳を示しなさい。なお、S社は割引時に受取手形を直接減額している。

### A 1 - 2 | 解答・解説 |



(借) 支 払 手 形 <sup>03)</sup>	10,000	(貸) 短 期 借 入 金	10,000
(借) 支 払 利 息	500	(貸) 手 形 売 却 損	500
(借) 前 払 費 用	200	(貸) 支 払 利 息	200

03) 割引時に受取手形を直接減額しているため、個別B/S上、割引分の受取手形は計上されていません。したがって、受取手形をあらためて減額する必要はありません。



#### 連結修正仕訳

① (借) 支 払 手 形	10,000	(貸) 受 取 手 形	10,000
② (借) 受 取 手 形	10,000	(貸) 短 期 借 入 金	10,000
(借) 支 払 利 息	500	(貸) 手 形 売 却 損	500
③ (借) 前 払 費 用	200	(貸) 支 払 利 息	200

①～③の仕訳をまとめると解答の仕訳になります。

04) 連結B/Sで、手形割引高が注記されている場合、注記の金額からも控除します。

## (2) 裏書手形

- ▶ 企業グループ内で振り出した手形を企業グループ外(仕入先など)へ裏書譲渡した場合は、通常の手形振出と考え、支払手形として処理します。

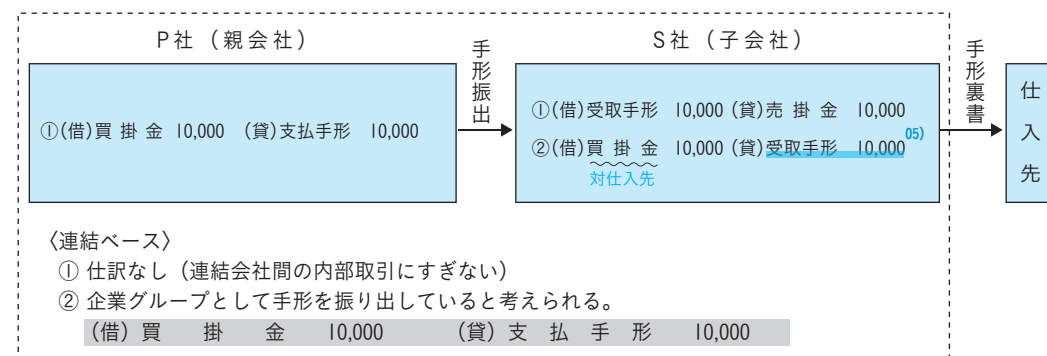
### Q 1 - 3 | 裏書手形 |

P社(親会社)はS社(子会社)に買掛金の支払のため手形 10,000円を振り出した(①)。また、S社はこの手形を買掛金決済のために裏書した(②)。このときの連結修正仕訳を示しなさい。なお、S社は裏書時に受取手形を直接減額している。

### A 1 - 3 | 解答・解説 |



仕 訳 な し



#### 連結修正仕訳

- ① (借) 支 払 手 形 10,000 (貸) 受 取 手 形 10,000  
② (借) 受 取 手 形 10,000 (貸) 支 払 手 形 10,000

①、②の仕訳をまとめると解答の「仕訳なし」となります。

05) 連結B/Sで、手形裏書高が注記されている場合、注記の金額からも控除します。

## 債権・債務の相殺消去

日付	/	/	/
✓			

連結決算にあたり次の連結修正仕訳を示しなさい。なお、P社は当期首においてS社株式の80%を取得し支配しており、会計期間は×2年3月31日を決算日とする1年である。

S社はP社に対し、P社受取りの約束手形700,000円を振り出したが、期末現在未決済となっている。P社はこのうち100,000円を仕入先に対して裏書譲渡し、200,000円を銀行で割り引き、残額を期末現在保有している。なお、手形割引時の割引料2,000円のうち次期に係る分は500円である。

(単位：円)

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

## 債権・債務の相殺消去

## 解答

(単位：円)

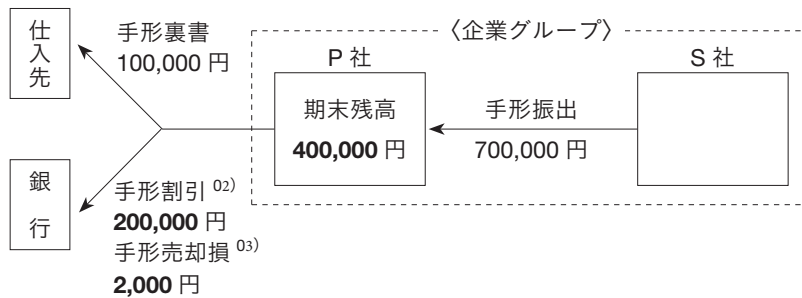
借方科目	金額	貸方科目	金額
支払手形	600,000	受取手形	400,000
		短期借入金	200,000
支払利息	2,000 <sup>01)</sup>	手形売却損	2,000
前払費用	500	支払利息	500 <sup>01)</sup>

01) 借方の支払利息と貸方の支払利息を相殺して記載してもよいです。

## 解説

## 受取手形・支払手形の相殺消去

連結会社間で手形取引を行い、連結決算期末に未決済の場合、それを示す受取手形と支払手形を相殺消去します。



02) 連結上は手形による資金の借入れと考え、「短期借入金」勘定に振り替えます。

03) 連結上は短期借入金に係る利息であると考え、「支払利息」勘定に振り替えます。